

## 第五次長野市総合計画 前期基本計画 H29年度と比較してH30年度の実績値が下落した指標

分野名	施策名	アンケート指標 ※5ポイント以上下落した指標のみ					統計指標 ※基準値と比較しても下落している指標のみ							
		指標名	基準値 (H28)	実績値 (H29) (H30)		増減 (H30-H29)	理由	指標名	基準値 (H27)	実績値 (H29) (H30)		目標値 (R3)	単位	理由
保健・福祉	2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援	【回答者自身の実践】子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている	45.3	47.9	42.5	-5.4	若者や子育て世代(20代及び30代)は肯定的割合が上昇しているが、年齢が上がるにつれ肯定的割合は減少し、特に60代以降は低下が顕著である。 子育て世代・世帯が身近にいないといった市民が増えつつあることと、地域での支え合いや思いやりの意識が弱くなってきていることを表していると思われる。	地域の方針決定の場への女性の参画度	16.4	16.5	16.0	30.0	%	地区役員には男性が就くとといった風潮が根強く残っていることに加え、地域において意欲ある女性はいるものの少数であり、単独での地域参画に躊躇してしまうことから役職への就任に結びつかないと考えられる。
	2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実													
	2-2-2 高齢者福祉サービスの充実	52.5	56.6	49.7	-6.9	少子・高齢化、人口減少社会が進行する中、各地域においては自治組織等を中心に、住民による地域での支え合い活動が実施されているものの、地域コミュニティ機能の低下等から、活動の広がりや住民の積極的な参加につなげていないと思われる。								
	2-5-2 男女共同参画社会の実現													
環境	3-1-1 低炭素社会の実現	【環境・体制】身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	27.4	37.0	27.4	-9.6	太陽光発電の設置や公共交通機関の整備など普及は進んでいるものの、公共交通機関の利便性や地域的事情などを理由に自動車利用の抑制が低下している。							
	3-1-2 循環型社会の実現	【環境・体制】身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	50.0	58.6	47.3	-11.3	自らはごみの分別を徹底しているなど環境に対する関心は高いものの、身のまわりの取組が不十分と感じているため、低下したと思われる。							
	3-2-2 良好な生活環境の保全	【回答者自身の実践】地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保持するための取組に参加している	48.8	50.6	45.2	-5.4	中山間地を除く各地域で、H29年度と比較しH30年度は5ポイント以上低下している。							
防災・安全	4-1-1 防災・減災対策の推進							防災訓練実施率	87.1	85.1	82.1	100	%	自主防災訓練実施率については、全ての自主防災組織が実施することを目標にしているが、天候不良等により、実施率が低下した。
	4-1-2 消防力の充実・強化及び火災予防							出火率(年)	3.3	2.8	3.9	3.0	件以下	例年、春先のたき火による火災が多いが、H30年度は、さらに夏場のたき火による火災が多かったことから、出火率が上昇した。
教育・文化	5-2-1 生涯学習環境の充実							若い世代を中心に構成される団体が市立公民館を利用した割合	9.9	10.5	9.5	11.0	%	若い世代の利用回数の減少割合が大きかったため。
	5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進							市立公民館の講座における地域住民が講師を務めた講座の割合	37.2	31.5	30.6	38.5	人	講師の都合や高齢化により講座の廃止が増加したため。
	5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進							南長野運動公園総合球技場入場者数	171,228	154,669	116,948	251,500	人	AC長野パルセイロのトップチームの成績不振により、ホームゲームの入場者数が減少したため。
産業・経済	6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進							観光消費額	13,017	13,866	10,157	14,300	円	来訪者アンケート調査の結果より、日帰りが11.4ポイント増加、自家用車利用が11.1ポイント増加した一方、JR(新幹線)利用が14.4ポイント減少し、一人当たりの観光消費額は前年を下回った。
	6-1-2 インバウンドの推進	【回答者自身の実践】困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている	34.2	39.1	33.9	-5.2	コミュニケーションの点で外国人観光客の手助けに躊躇する人もいる。年により多少の増減はあるが、約3割の市民への理解は定着してきていると判断できる。							
	6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進	【回答者自身の実践】野菜や果物づくりなどを楽しんでいる	44.0	47.0	41.7	-5.3	肯定的回答の割合は市街地地域で4割弱の一方、中山間地域では6割を超える。年代別には65～69歳及び70歳以上で5割を超えるが、年代が若くなるにつれて低下する。主な否定的意見では、機会や土地、時間がないといった意見が目立つ。							
都市整備	7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築	【回答者自身の実践】公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	50.4	55.9	48.4	-7.5	特に19歳以下及び60代の肯定的回答が否定的回答に移行し、前年度から7.5%減。必要性は理解しながらも、公共交通機関の利便性等から行動ができていないとの否定意見が多い。							
	7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備													